

平成 29 年度第 1 回鹿児島県男女共同参画審議会専門部会の会議結果の概要

開催日時	平成29年7月10日(月)午前10時から正午まで		
開催場所	県庁7階会議室(7-A-3)		
出席委員	大庭 直美, 武隈 晃, 田中 佐和子, たもつ ゆかり(計4人)		
公開・非公開の別	公開	傍聴者数	0人
問い合わせ先	県民生活局 男女共同参画室(直通電話:099-286-2634)		
議 事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 部会長の選出について</li> <li>2 「第3次鹿児島県男女共同参画基本計画(仮称)」の基本的な考え方について</li> </ol>		
会議の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 部会長の選出について 委員の互選により、部会長に武隈委員が選出された。</li> <li>2 「第3次鹿児島県男女共同参画基本計画(仮称)」の基本的な考え方について 計画の概要案等について事務局から説明を行い、委員から意見を伺った。 委員からの意見については事務局において整理の上、審議会に諮ることとなった。</li> </ol> <p>委員からの主な意見は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2次計画策定以降、課題が明確になってきている。3次計画における重点目標は問題性をクリアにした表現がよい。</li> <li>・ 職業生活における女性の活躍推進が言われているが、輝く女性とは働く女性のことですかという意見も聞かれた。女性活躍は、男女共同参画の一環であることを丁寧に説明する必要がある。計画の基本目標に人権をうたっていることから、全ての人に寄り添う計画であるということの説明が必要。女性の活躍が進まない背景にある男女間の不平等感など、この計画全体を見て伝わるようにしてほしい。</li> <li>・ 県民意識調査の結果から、意識の変化が見られた今こそ、固定的性別役割分担意識というワードを見せることで課題性を明確にし、施策に結びつくようにしてほしい。</li> <li>・ 性に起因する人権の問題(LGBTなど)は、今後ますます顕在化するので、明確に位置付けるべき。</li> <li>・ 生涯を通じた女性の健康支援については、例えば本県の人口妊娠中絶実施率は、数値目標を10代にしているが、他の年代も高く、全国1位である現状。2人目、3人目を産むときの経済的な問題や、2人目を産んだら働けないなど、自己決定できないような環境があるのではないか。</li> <li>・ ワーク・ライフ・バランスを越えた働き方改革の必要性が問われている。非正規労働者、女性の待遇改善等も含めて、見える形にしてほしい。</li> <li>・ 地域について、社会は複雑化しており、包括性を持っている地域と協働しなければ、特に福祉課題への対応などはできない。しかしながら、その受け皿として期待される地域コミュニティにその力は無い。だからこそ男女共同参画の視点による地域コミュニティづくりが大変重要。</li> <li>・ 2次計画と比較して施策の方向がかなり少なくなった印象だが、課題性を明確にしたことや項目の次元的な整理を行った結果であり、対象領域を減じたわけではないことがわかるようにしてほしい。</li> <li>・ 2次計画の一つの成果として、全市町村に計画ができ、担当者の自主的な研究会が立ち上がったことがあるが、市町村の取組には依然格差があり、それを埋めていくことが必要。</li> </ul>		